

日本珐瑯工業会の設立と会員の推移

日本珐瑯工業会は、1976年（昭和51年）に社団法人として設立されました。それ以前（1965年～1975年）は、日本珐瑯工業連合会（日珐連）という組織で、ほうろろ関係者が集まり、ほうろろ業界の技術向上、家庭用品の安全対策と消費者対応に当たっていました。しかし、時代的にはオイルショック、環境対策、消費者保護並びに中小企業近代化等の問題が顕在化し、それらへの対応として、業界一本化の気運が高まる中、当時の通産省の指導により、ほうろろ業界をまとめる社団法人として、日珐連を基に発展的に組織化されて日本珐瑯工業会は設立されました。発足当時は3支部体制（東日本、中日本、西日本）で活動し、会員数は100社（正会員84社、賛助会員16社）で始まりました。正会員はほうろろ製品を製造する企業で、賛助会員はほうろろの原材料（釉薬、鉄板等）、ほうろろ関連設備（焼成炉、前処理、施釉等）そして、その他ほうろろに関連する資材を扱う企業が参加しました。その後、参加する会員数は増え、1978年（昭和53年）には会員数125社（正会員97社、賛助会員28社）まで増えました。1980年代は100社以上の会員が参加していますが、1990年代に入り各企業の海外への生産移転が加速されるとともに、海外からの輸入製品との競合が激しくなり、日本のほうろろ業界は縮小していくことになりました。2000年には会員数は50社ほどに減少し、その後も会員数が減少していったため、それまでの3支部体制を本部（東日本）のみで運営する体制となりました。

会員数は、2010年には30社となり、2020年には20社を切るまで減少し、現在に至ってます。その間、公益法人改革により社団法人日本珐瑯工業会は2012年に一般社団法人日本珐瑯工業会に移行するとともに、2014年には本部事務所を吾妻橋から荒川区町屋に移転しました。設立からの会員数の推移をグラフで示します。

